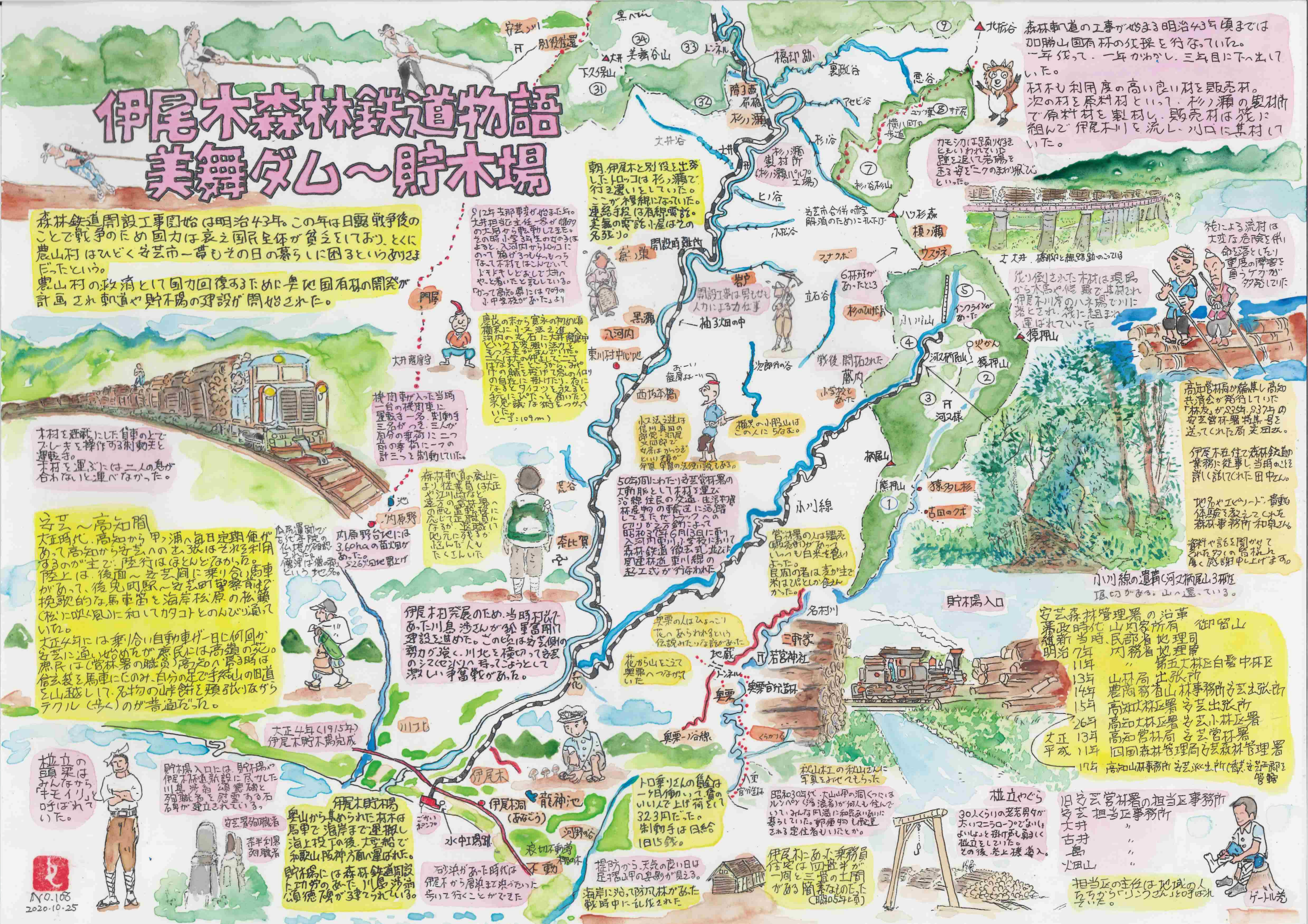
伊尾木森林鉄道物語
美舞ダム～貯木場
森林鉄道開設工事開始は明治43年。この年は日露戦争後のことで戦争のため国力は衰え国民全体が貧乏をしており、とくに農山村はひどく安芸市一帯もその日の暮らしに困るというありさまだったという。
農山村の救済として国力回復するために奥地国有林の開発が計画され軌道や貯木場の建設が開始された。
森林軌道の工事が始まる明治43年頃までは加勝山国有林の伐採を行なっていた。
一年伐って、一年かわかし、三年目に下へ出していた。
材木も利用度の高い良い材を販売材。
次の材を原料材といって、杉ノ瀬の製材所で原料材を製材し、販売材は筏に組んで伊尾木川を流し、川口に集材していた。
朝、伊尾木と別役を出発したトロッコは杉ノ瀬で行き違いをしていた。
ここが複線になっていた。
連絡手段は有線電話。
美舞の電話小屋はその名残り。
開設時難所
大井谷
杉ノ瀬
岩戸
50年間にわたり安芸営林署の大動脈として木材を運び沿線住民の交通、生活物資林産物の輸送に活躍してきたが、トラックへの切りかえ方針によって昭和37年6月13日に別役入河内東川小学校において森林鉄道撤去式並びに関連林道東川線の起工式が行なわれた
小川線
名村川
安芸～高知間
大正時代、高知から甲ノ浦へ毎日定期便があって高知から安芸への出張はそれを利用するのが主で、陸行はほとんどなかった。
陸上は、後免～安芸間に乗り合い馬車があって、後免町駅～安芸町警察前まで挽歌的な馬車笛を海岸松原の松籟(松に吹く風)に和してカタコトとのんびり通っていた。
大正4年には乗り合い自動車が一日に何回か安芸に通い始めたが庶民には高嶺の花。
庶民は(営林署の職員)高知へ帰る時は信玄袋を馬車にたのみ、自分の足で手結山の旧道を山越しして、名物の峠餅を頬張りながらテクル(歩く)のが普通だった。
伊尾木村発展のため、当時村長であった川島渉さんが孤軍奮闘して建設を進めた。この頃は安芸側の勢力が強く、川北を横切って安芸のシマ(センバ)へ持ってこようとして激しい争奪戦があった。
花
川北
伊尾木
龍神池
伊尾木洞
(あなごう)
河野の谷
浪切不動尊
椰の木
不動
水中エ場跡
ごかい
ポンプ
伊尾木貯木場
トロ乗りさんの賃金は一ヶ月働いて、賃のいい人で上げ荷をして32.3円だった。
制動手は日給1日15銭。
砂浜があった時代は伊尾木から唐浜まで浜づたいに歩いて行くことができた
堤防から、天気の良い日は足摺岬の島影が見える。
海岸に沿って防風林があった
戦時中に乱伐された
小川線の遺構(河又柄尾山3林班
堀切がある。山へ還っている。
厚く感謝申し上げます。
安芸森林管理署の沿革
藩政時代 山内家所有 御留山
維新当時、民部省地理司
明治7年 内務省地理寮
11年 〃 第五大林区白髪中林区
13年 山林局出張所
14年 農商務省山林事務所安芸出張所
15年 高知大林区署安芸出張所
26年 高知大林区署安芸小林区署
大正 13年 高知営林局 安芸営林署
平成 11年 四国森林管理局安芸森林管理署
17年 高知山林事務所安芸派出所(香美、安芸両郡を管轄
旧安芸営林署の担当区事務所
安芸 担当区事務所
北林谷
NO.108
2020.10.25